

SI SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEB
LDII SAKURASO
H PRIMULA
OH PRIMULA SAKURO SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURO

さくらそう通信

10号
2000.3.30

田島ヶ原サクラソウ自生地で、
サクラソウの花の蜜を吸うチョウを観察

礒田 洋二



図1 吸蜜しているモンキチョウ



図2 吸蜜しているキタテハ



あの進化論で有名なチャールス・ダーウィンは今から120年も前に、サクラソウの仲間には雄しべや雌しべの位置が異なる二つの花形があって、この二つの花形の間を花粉が運ばれて受粉（他家受粉）する構造になっていると述べています。それ以来、花粉を運ぶ昆虫がいると考えられ、その昆虫探しははじまり、現在も続けられています。

昆虫によって花粉を運んでもらう植物は、花から蜜や香りを出し昆虫を誘い、さらに、特定の昆虫に花粉を運んでもらうように花の構造を進化させたと考えられています。サクラソウの場合は花冠のもとが細長い筒になってその筒の底に蜜を出し、ストローのように細長い口器を持った昆虫でなければ蜜を吸えないように進化しました。これまでに日本の各地で、クロアゲハ、カラスアゲハ、アオスジアゲハ、キタテハ、クジャクチョウ、テングチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、キチョウ、ダイミョウセセリ、ミヤマセセリ、サカハチクロナミジャク、ホシヒメホウジャクなどのチョウやガの仲間と、トラマルハナバチ、オオマルハナバチ、ハナダカハナアブ、ピロウドツリアブ、コハナバチなどのミツバチやハナアブの仲間などが、サクラソウの花の蜜を吸っているところを観察されています。これらの昆虫はどれもが細長い口器を持っています。サクラソウが花粉を運んでもらうことにした頼みの昆虫は、これらの昆虫の中にいるのか、それとも別の昆虫なのか、現在でもはっきりしたことがわかっていません。

田島ヶ原サクラソウ自生地では、第二次世界大戦（1941年～1945年）以前から、『サクラソウの花にくる昆虫がほとんどいないのに、よく実を結ぶのは何故か』という謎がありました。人目を避けて、サクラソウの受粉にかかわっている昆虫がいるのかも知れません。私はこの謎解きに興味を持って、田島ヶ原でサクラソウの花から蜜を吸っている昆虫を探しては、蜜を吸っていること（吸蜜行動）の証拠になる写真を撮っています。田島ヶ原では、サクラソウの花に飛んでくる昆虫には、なかなか出会えません。せっかく出会っても、近づくと気配を感じてか、いち早く逃げてしまいます。うまく近づけても、蜜を吸っていることがわかるポーズをとってくれることは滅多にありません。

今年はキタテハとモンキチョウの2種類のチョウについて、サクラソウの花から蜜を吸うようすを観察することができましたので、証拠写真を添えて紹介します。

1. モンキチョウの吸蜜行動の観察

平成11年4月15日は晴天で、サクラソウの開花最盛期を迎えた田島ヶ原では、浦和市教育委員会により毎年行われているサクラソウの生育個体数の調査と、ハチの

研究者として知られている南部敏明先生による訪花昆虫の調査が行われていました。その日の調査も終りに近づいた午後3時に、私は第一自生地の東寄りにあるサクラソウの大群落のところに行きました。そこで調査をしている南部先生に会って話をしていると、1頭の雄のモンキチョウが、50センチメートルほどの草丈になったオギの茂みの間を、低空で見え隠れしながら飛び回り、そのうちに姿が見えなくなったのですが、特に気に留めることもありませんでした。話が終わって歩きだした途端に、足元からモンキチョウが飛び出して近くのサクラソウの花に止まりました。近づいても飛び立ちません。注意して観察すると、モンキチョウは口器をのばして花筒に入れたままじっとしているのです。12秒ほどその姿勢でいましたが、急に飛び立って近くの花に移りました。花に止るとすぐに口器をのばしたり巻き回して花筒の入口を探するような行動を始めました。そして、蜜の吸える位置と足場を確保するためか、花の上を左右に少し動いて静止すると、のばした口器を花筒に入れて、約8秒ほどその姿勢でいて、再び飛び立って近くの花に移りました。証拠写真を撮りたかったのですが、カメラにフィルムを入れておかなかったのです。20メートルほど離れていた南部先生に、「ここで、モンキチョウが吸蜜しているのだけれど、カメラにフィルムが入っていないんです。」と、大声を出した途端にモンキチョウは目の前から飛び去ってしまいました。幸いなことに、飛び去った先は南部先生の近くでした。そこでもモンキチョウは、サクラソウの花を次々に移動して蜜を吸いました。図1の証拠写真は、この時に南部先生が撮ったものです。

この後、同じ場所の北寄りで、サクラソウから吸蜜している3頭の雄のモンキチョウを観察できました。この日は、午前9時から田島ヶ原にいて、モンキチョウが低空を飛んでいるのをときどき見ていましたが、サクラソウでの吸蜜行動を見たのはこのときだけです。しかも、雄だけが4頭も一斉にサクラソウから吸蜜をしていたのですから驚きです。帰宅してから文献で調べたところ、今までにモンキチョウがサクラソウで吸蜜したという記録は見あたらないのです。私たちの観察が初めてであったということも驚きでした。

2. キタテハの吸蜜行動の観察

平成11年4月22日と4月27日に、サクラソウの花が開花の最盛期を少し過ぎた頃になった田島ヶ原で、サクラソウの花に来て止る昆虫（訪花昆虫）を探しながら歩いていて、サクラソウの花に止って吸蜜行動を示したキタテハを5回観察することができました。

4月22日の場合は、晴天で南風がわずかに吹き（風力1）、正午の気温は23.5℃という穏やかな日でした。